

平成29年11月30日

地域密着型サービス運営推進会議報告書兼議事要旨

厚生労働省令第34号(平成18年3月14日)第108条の規定に基づき、平成29年11月27日に運営推進会議を開催したので、その記録を作成し、これを公表します。

千葉県長生郡白子町幸治3079番地3

設置主体) 株式会社 相生

代表者) 代表取締役 萩原 将之

事業所及び事業主体の概要

【事業所】 ゆうなぎ九十九里

(認知症対応型共同生活介護 通称：グループホーム)

(介護保険事業所番号) 1275900213

(管理者) 管理者兼ホーム長※ 小川 功一

(所在地) 〒283-0102 千葉県山武郡九十九里町小関2316番地1

電話0475(70)7333 FAX0475(70)7335

(開設年月日及び共同生活住戸と利用定員)

平成17年10月 1日開設、利用定員9人(一番館)

平成23年 4月 1日開設、利用定員9人(二番館)

※ホーム長は当社職制

【事業主体】

〒299-4216 千葉県長生郡白子町幸治3079番地3

(商号) 株式会社 相生 (かぶしきがいしゃそうせい)

(代表者) 代表取締役 萩原 将之

電話0475(36)5711 FAX0475(36)5712

運営推進会議の概要

日 時：平成29年11月27日 13時30分から14時30分

会 場：当ホーム一番館の畳ルームにて

出席者：運営推進会議の構成

当ホーム

- ・ 代 表 取 締 役 萩原 将之（設置主体代表者）
- ・ 管理者兼ホーム長 小川 功一（一番館担当、介護支援専門員）
- ・ 計画作成担当者 内山 貴司（二番館担当、介護支援専門員）

委 員

- ・ 地 域 住 民 1名（近隣の住民）
- ・ ちどりの会（ボランティア団体） 2名

（議題）

1. 入居者情報
2. ゆうなぎかわら版の内容について
3. 入居者の事故について

(議事要旨)

前回の運営推進会議（9月25日）から今日までの施設や入居者の様子について、説明を行う。また、『ゆうなぎかわら版10月号、11月号』の解説。最後に管理者の小川より、入居者の様子などについて伝える。

1. 入居者情報 平成29年11月21日現在

一番館：男性3名 女性6名 小計9名
二番館：男性6名 女性3名 小計9名
計18名・うち九十九里町内の入居者は12名

パソコンを用いてデータを集計、円グラフ化したものを各委員へ配布。読み上げながら、説明を行う。

内山) 現在両館とも満床の状態であり、男女の合計人数・被保険者数（当町が最も多い）などは、前回の会議から変動はしていない。要介護度4の方が4人と最も多いが、11月21日に2名の方の介護保険更新認定を実施しており、認定の結果によっては、変動する可能性が考えられる。

委員) 認定後の介護保険の有効期間は、入居者によって違ってくるのか。

内山) 初回の介護保険認定では、有効期間は短期で設定される傾向にある。更新の場合は、長期（3年程度）で設定する場合が多い。当ホームの入居者のほとんどは後者である。

小川) ≪補足説明≫

若い方が疾病により介護が必要になった場合を例にすると、治療等により症状が改善・回復することで、(短期間に)介護度が変動する可能性が考えられるため短期の有効期間となる。高齢者は、状態が大きく変化することが見込まれない場合、2度目の更新から長期の有効期間となる場合が多い。

2. ゆうなぎかわら版の内容について

10月号と11月号内容について説明を行う。

内山) 10月号ではボランティアによる、レクリエーションの様子を掲載している。昼食後に1時間ほど、踊りの鑑賞や合唱を楽しまれた。11月号では、両館合同での防災訓練の様子と食事会の様子を掲載している。例年、訓練では当ホームの敷地までの避難を実施するが、今回は雨天のため避難経路の確認までを実施し終了した。なお10月号には1名、11月号には3名の入居者の誕生会の写真を最後に載せている。

萩原) 12月16日11時より、当ホームでのクリスマス会の開催を10月号にて家族に知らせている。多数のボランティアの参加を予定しているので、ちどりの会からも是非昨年同様に参加をして頂ければと思う。

3. 入居者の事故について

《具体的な最近の事例の説明》

小川) すでにご承知の方もおられると思うが、前回の運営推進会議から約1週間後の9月30日に、入居者(女性)Tさんが居室の窓から無断で外出する事案が発生した。事故発生は9時30分頃、職員は早番者と日勤者の2名と、当日の夜勤者がいる状態であった。すぐに徒歩と車にて捜索を実施し、生家の周辺・当ホーム周辺の裏道を捜索したが見当たらず、警察へ通報。30分ほどして、近隣のコンビニエンスストアにいるところを発見し、私と一緒に戻られた。

職員への聴き取り調査によれば、朝方より帰宅の訴えは聞かれていたとのことであった。また事故発生後より、本人の中で何らかの心境に変化がみられた様子があり、無断で外出するなどはない。本人の話を聞いていくと、金銭に関することを述べ「ひとりで生活をしたい」との訴えがあった。しかしさらに話を聞いていくうちに「寂しい」という思いが根底にあり、そこから帰宅願望＝無断での外出に至ったのではないかと思われる。

また介護者は入居者の様々な訴えについて「認知症のせいではないか、周辺症状ではないか」と考えてしまう傾向にあるが、先日Tさんの姉弟と話す機会があり「昔から自分の思いを一方向的に話して、他人の意見を聞かない人」であったとのことで、改めて本人の生活歴や疾病歴を把握して、本人の性格(考え方の傾向)を知る重要性について考えた出来事であった。

重要なことは先入観を持つことなく、入居者本人の話を聞くことであると思う。以前特別養護老人ホームに勤務していた時、ある入居者から「部屋に蛇がいる」との訴えがあった。私自身、野生の蛇をそれまで見たことがなくて、部屋に蛇がいるわけがないと思ったが、見に行くと本当に蛇がいたことがあった。

委員) 入居者本人の中で話のつじつまが合わなくなると、都合の良いように話を作ってしまう人もいる。そのために色々なことを訴えていると思われてしまうのではないか。

小川) 確かにそのような方もいる。また介護者として入居者の話を聞いていく中で、「その時、その瞬間に」相手に納得をしてもらえるだけの説明・声かけなどの言葉をどれだけ豊富に職員が有しているかも重要な要素である。

委員) 最近、障害者の恋愛をテーマにしたテレビを観たが、我々と同様に自分自身のことについて真剣に考えている「普通の人」という印象を受けた。認知症の方についても、そのように考えて接することができればよいのだが。

小川) そのためには、介護者がもっと認知症などについて地域住民に知ってもらえるように、働きかけをしていくことも重要であると思う。

※認知症の周辺症状についての資料を会議中に配布。

最後に次回の運営推進会議の開催日を平成30年1月29日の13時30分から予定していることを伝え、会議を終了する。

本件のお問合せ先

グループホーム ゆうなぎ九十九里

管理者兼ホーム長 小川 功一

電話 0475-70-7333